

平成20年度事業報告

	20年度事業方針	評価・反省	課題（次年度引継ぎ事項）
基本方針	<p>一よりよいスカウティングをより多くの青少年にー スカウティングの原点を踏まえ魅力あるスカウティング を計画的に展開する。</p>	<p>従来通り計画は出来たが、実行 には不十分であった。</p>	<p>より平易な表現で加盟員の 気持ちを引きつける必要が ある。</p>
重 点 目 標	<p>スカウト運動の基本を大切に加盟員数を拡大する 京都連盟内各団は「中途退団者 ー0」を達 成しよう！</p> <p>スカウトは人に役立つ活動をしよう！</p> <p>友人と進んで社会参加をしよう！</p> <p>友情バッジを獲得しよう！</p>	<p>登録団70個団中、下記のような登録状況となった。</p> <p>登録数がマイナスの団は58% 登録数がプラスの団は32% 前年度と変動なしが10%</p> <p>女子駅伝をはじめ社会参加事業は、多数の奉仕のもと実施できた。しかしながら奉仕人数の減少は進んでおり、今後の対応に課題が残る。そんな中で「視覚障がい者マラソン」は奉仕者が激増、障がい者に対する意識の変化が感じられた。</p>	<p>保護者対象の懇談会を実施するなどして保護者ニーズと中途退団要因等を把握し、減少の歯止め策を検討し、実施する。</p> <p>社会参加奉仕に対する意義を示し、地域社会に貢献する中でスカウト運動を広めていく。</p>
	<p>指導者は 指導力のレベルアップにつとめよう！</p> <p>青少年に国際的視野に立つ楽しいプログラムを提供しよう！</p>	<p>改定BS講習会が参加意欲をそそり昨年度と同開催数で36人多い183人を記録した反面、人数の多さでセッション内容や運営面まで影響を与えた。BS実修所参加者中、京都連盟からは11人が基本訓練を修了した。またコミッショナー研修所でも10人が修了した。</p>	<p>BS講習会に関しては参加人数の適正化をはかり研修効果を高めていくことが重要。一般からの希望者や団からの参加者の取りこぼしを防ぐ為、臨時的講習会を開催できるように委員会での協議を促進していく。</p>
	<p>京都連盟はスカウト教育法を正しく理解し、国際性に富む指導者の育成につとめよう！</p>	<p>ウェブサイトを通じて情報提供をする機会を十分に生かせなかった。</p> <p>海外派遣の案内をしても指導者に興味が無いのかスカウトへの浸透が十分でなかった。これは国際性に富む指導者の育成が出来なかったことが一因でもある。</p>	<p>媒体（ウェブサイト、メール、紙）の定期発信を通じて、各団、加盟員が情報を発信しようという気運を高めることで、組織の活性化を図る。</p> <p>コミッショナー研究会で国際についての学習を願う。</p>
<p>京都連盟の目指す国際性到達目標を設定する 「見える見える世界が見える。 わかる わかる地球がわかる」 国際都市京都で活躍する青少年を育成しよう！</p>	<p>この主旨を組織内に周知できなかった。</p>	<p>国際タスクチームの指導者を対象にした学習会の開催を要望。</p>	
<p>1 京都連盟100周年に向けて、草創期からの諸氏の業績の集大成の推進 知新チームを組織し、年次計画を策定すると共に、資料収集の推進</p>	<p>京都連盟創立100周年プロジェクトチームを立ち上げる。</p>	<p>継続で取り組む。</p>	

	2 京都連盟の目指す国際性到達目標の推進 団内の年代相応の国際プログラム展開の 支援を推進	十分でなかった。	国際タスクチームで年代に 応じたプログラムの展開を 研究してもらい、支援の推 進をお願いする。
	3 団の組織活性化・拡充への支援	組織担当団委員への更なる研修 の機会提供が出来なかった。 団の情報担当者の設置を促し、 メール通信を通じて情報の共有 化を図ろうとしたが成果は低 い。	団が何を求めているか？ ニーズを掴み、機会を提供 し共に考え検討する。 常に団の理念を明確にし一 体感を高めるために、 キャッチコピーを団ホーム ページに掲げる。 中学・高校・大学・NPO団 体などにボーイスカウト新 団発足の可能性を調査・研 究する。
	4 学校教育との一層の連携を図り、多くの子ども にスカウトプログラムを提供する。 ①「小学校長期宿泊自然体験学習」支援 チームを編成し支援する。 ②「教員野外活動研修」（仮称）に協力 支援する。 ③府・市教員、学生の社会体験研修を受託 し、広くスカウト運動の普及を図る。	チームリーダーの下「教員野外 活動研修」を京北・森林公園で 実施した。結果として、諸般の 都合で導入編のみの実施となっ た。「長期宿泊学習」について は支援の機会が無かった。	地域の小学校との連携にも 役立つことであり、引き続 き最大限の支援を行う。
重 点	5 指導者の資質向上 ①指導者全体集会（全体ラウンドテーブル） を実施する。 ②他団体研修会への積極的参加推進を図る。	連盟内55個団より233人の 参加を得て開催した。時間配分 の件や事前周知の徹底不足等の 課題があった。 諸案内にたいしての周知不備が あった。	タスクチームの初動を早く することが必要。スケ ジュールの再考、事前周知の 徹底と参加募集の一本化、指 導者養成委員会との連携も 必要。 参加推進を図る上で選別必要
	6 国際プログラムへの参加推進 ①国際フォーラム、国際プロジェクト、日韓米・ 韓日スカウトフォーラム、海外各種大会など への派遣、国内各種国際交流プログラムへ の参加促進。 ②海外スカウト受け入れ協力体制の整備 ・ホームステイ受け入れ家庭の拡大 ・受け入れスカウトとの交流プログラム支援 ③ギフト・オブ・ピースへの参加者の増員	第10回日本アグーナリー参加 者の知事表敬をプレスリリース し、京都新聞に掲載された。 日米フォーラムへの参加は無 かったが、他の参加は果たせ た。しかし限定した団、人で あったのが残念である。 1ONAの後のオーストラリア の障がいスカウトを含む関係者 を受け入れる。 残念ながら出来ていない。	同様の展開をする。 第23回世界ジャンボリー に向けて、テーマ「和」が 社会一般に浸透するよう、 ロコミをはじめ携帯やウェ ブを通じた情報戦略を立て る。マスコミや他人任せの 広報ではなく、ひとり一人 の善行がスカウト運動の普 及に結実する方策を練る。 同様の展開をする。 国際タスクチームでの展開 を要望。
策			

7 ローバースカウトの育成、ユースチームの活性化の推進	京都連盟表彰式の司会にローバースカウトを起用することが出来た。	富士章進級者に活躍の場を積極的に提供する。 ウエルカム・ザ・ワールドプロジェクトの推進。
8 財政基盤強化拡大への努力 ①振興会への加入促進・ボーイスカウトカード加入・経費節減などの協力 ②外部財源活用の研究	ボーイスカウトカードが利用増大した。(財)京都ボーイスカウト振興会の新公益法人への移行準備に伴い維持会員および支援者の増強に協力した。	外部財源の活用に重点を置く。
9 56KC実行委員会、7NV京都基地実行委員会の設置	2委員会とも8月の開催に向けて、立ち上げには少々紆余曲折もあったがスタートをした。準備状況は遅れ気味ではあるがスカウトによりよいプログラムを提供するため全力で準備を進める。	開催まで4ヶ月あまり。参加スカウトに感動を与えられる運営を目指して準備を進める。
10 緊急災害支援チーム設置の準備	本年度は手付かずである。	継続で取り組む。